

2-P-5

## 兵庫県地域格差における障害者歯科診療と歯科医療従事者の意識調査（2020）

## 兵庫県の知的障害者施設における口腔ケアの実態調査（2021）

水村 容子<sup>1)</sup>八木 孝和<sup>1)</sup> 高橋 由希子<sup>2)</sup> 破魔 幸枝<sup>2)</sup>

歯科領域において知的障害者は口腔ケアにも適切な支援を受ける必要があるが、困難な場合が多く、一般の者に比べてオーラルフレイルが早期から始まるといわれている。しかし、兵庫県の知的障害者入所施設における口腔ケアの実態は明らかでない。そこで我々は、施設と歯科との連携や日々の口腔ケアの実施状況に関する実態調査を行うことを目的とした。

兵庫県の知的障害者入所施設、全 80 施設の施設管理者 1 名および施設職員 5 名を対象とし、施設管理者には施設と歯科との連携について、施設職員には日々の口腔ケアの実施状況について質問紙調査を実施した。

80 施設中 26 施設（施設管理者 25 名、施設職員 118 名）の回答を得た結果、施設協力歯科医師は 19 施設（17 施設は嘱託）に配置され、歯科健診の頻度は不定期が 6 施設で最も多かった。施設入所者への歯磨き介助は全施設が実施していたが、実施者は利用者が口を開けてくれない、ハブラシを噛む事が負担であることがわかった。さらに、歯科医療従事者には、患者への歯科治療よりも職員への口腔ケア等の講習会の実施が求められていることがわかった。

以上から、兵庫県の知的障害者入所施設において、歯科との連携はある程度認められたが十分な連携が取れていない現状があり、今後、歯科医療従事者に求められているのは、施設職員に対する口腔ケアの講習の実施による、施設職員の歯磨き介助負担軽減と相談の場の提供が必要であると推察された。

---

1) 保健科学部口腔保健学科 2) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科